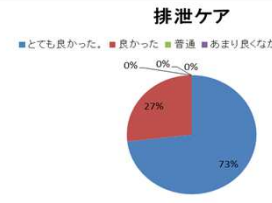


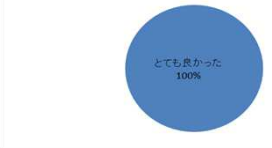


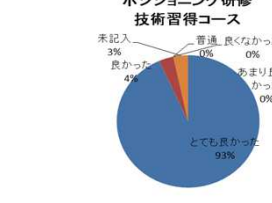







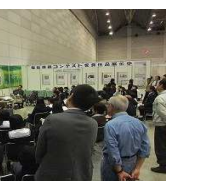
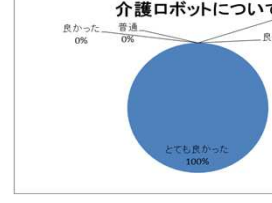




平成26年度NPO福祉用具ネット主催 研修会&交流会結果報告

| 回数 | 開催日時 | 定員 | 研修会&交流会テーマ | 講師 | 参加人数 | 受講者評価 | 受講者の感想より | 研修会のような |
|----|---|-----|--|--|------|---------------------------------|---|---------|
| 1 | 5月10日(土) 13時から16時 | 30名 | 交流会1回目「介護美容について」 講演&意見交換会 介護の現場にもっと美容に対するケアを取り入れませんか！高齢女性のいつまでもきれいでいたい気持ちを支援するためには。みんなで考えてみませんか！ | 話題提供者 ナリス化粧品 美容部長 谷都美子氏 | 27人 | 介護美容交流会アンケート結果 | ビューティタッチセラピーを広義な観点で捉えるならば、必ずQOLの向上を図る支援につながるかと確信しました。個別対応は必要ですが、今後ケアプランのアセスメントの観点として位置付ける挑戦をしていきたいと思います。 コミュニケーションをとるために触れ合うことの効果は大きいと思います。その手段として今回のハンドマッサージはとても良いと思いました。 化粧、スキンケア、タッチなどについて改めて考えさせられ、気付きを得られたと思います。私自身はいわゆる化粧はしませんが、よく考えてみると基礎化粧品を選ぶときには自分の肌に合わせて、トラブルのないように考えながら選んでいます。それらは、とても生活に密着した部分です。食べる、寝る、排泄することが安全に安楽にできることは先ず必要ですが、人としてその人らしく生きるためには、それだけでは足りないと思います。そのことを改めて意識させていただいたことがとても良かったと思います。また、交流会として、さまざまな立場の方の話を伺うことができ、参考になりました。頭でそう考えていても、仕事では「ADLとしての関わりはOK。でも化粧に関してはQOL？リハ職として関わる？」という気持ちを分らないでもありませんでした。私自身は生活の視点として意識したいとも思いました。また、チームとしての関わりの中では、自分が実際に関わる・関わらないとは別に気づくことができ、伝えるということがとても大切だと思いました。 | |
| 2 | 平成26年6月14日(土) 9時30分受付開始 講義10時から17時 昼休み1時間 講義時間6時間 | 50名 | 【健康増進のためのポスチャリングケアPart1 & 2】 「座り姿勢を見直す～パート1」 すぐに使える食事場面の座り姿勢について(車いすから家具椅子まで) 内容 「すべり座りの原因と対応」「横に崩れる場合の対応」「ハイバックリクライニング車椅子での調整」など、一般にいうシーティング全般の内容。 食事場面に起こりがちな支障状態を確認した上での対応策についてなど。 | 講師 日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG 研修担当世話人 大淵哲也氏 (理学療法士) | 51人 | ポスチャリングケア1日目 | ・座り姿勢や寝ている姿勢が、床ずれや呼吸、普段の姿勢に影響を及ぼしていくので、福祉用具を扱っている私としては現場で提案を行っていき、ご利用者の改善に全力を尽くしていきたいと強く感じました。 ・座り姿勢、特に車いすの座り姿勢について分かりやすく、実技もあり、とても良かったです。自分で気付いていた車いすのすべりがなぜ起きるのかも理解できました。 ・自分はSTなので姿勢にあまり詳しくなく、食事の座り姿勢も担当のPTさんをお願いすることもあったのですが、本日の研修で、姿勢調整が少しだけでもわかった気がします。難しいと思っていたのですが、今後自分の患者様のために活かしていきたいです。 ・分かりやすい説明で理解出来た。実際の事例で解りやすかった。多くのことを知ることができました。 ・ポスチャリングケアによって全身の健康状態につながるこの根拠が理解出来た。原理が分かることによって、解消法がいろいろ(何通りも)工夫次第で(安価で)できる。亡くなった母がまさしくソファに座ってもすべり座り、車いすに座っても傾く・もつと早くこれら座り調整方法を理解していたらと思いました。また、調整し、工夫を行った後、必ず評価することによって客観的に効果を確認するということは何事についても同じことが言えると感じた。 | |
| 3 | 平成26年6月15日(日) 8時30分受付開始 講義9時から15時 昼休み1時間 講義時間5時間 | 50名 | 【健康増進のためのポスチャリングケアPart1 & 2】 「座り姿勢を見直す～パート2」 新しい視点からの拘縮予防と褥瘡予防のためのファラー位とギャッジアップケアについて 内容 ギャッジアップベッドそのものの使い方と同時に、望ましいギャッジアップを行いながら、さらにポジショニングパッドを用いたケアの方法。不良ギャッジアップ姿勢についてなど。 | 講師 日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG 研修担当世話人 大淵哲也氏 (理学療法士) | 35人 | ポスチャリングケア2日目 | ・ベッドやポジショニングについて、最新の知見が得られた点(自分の考えの古さに気付かされた)座学と実技の配分が程よく、楽しく学べた点。「ベッドの軸の位置や軸間距離なども考慮して選ぶことが本当のケアプラン」という言葉にハッとさせられました。自分の担当している患者さんにも即使える内容であった点。 ・ベッド上でのギャッジアップケアについて理解できました。分かりやすかったです。本人様の身体状況を観察に、本人の身体状況に合わせてギャッジアップを行い、安楽な姿勢の大切さなど分かりました。アプローチと評価の必要性も分かりました。 ・実技があったのでより分かりやすかったです。今回の講習を職場でどう伝えられるのか、どう実行できるのか、多少不安はありますが、いやいや、多大な不安はありませんが、自分の関わりを改めて、近いうちに、記憶に新しいうちに職場内で講習しよう、と意気込んでいます。 ・今回2日間にわたるポスチャリングケアのセミナーに参加させていただきましたが、車いすの座面シートのため！今までまったく気付くこともなく、座面底板については目下まで目下まで。姿勢調整の概念を伺い、車いすの身体への適応や床ずれ予防、膝下までアセスメントを行っているつもりでしたが、呼吸の不安、ADLの低下から健康被害まで及ぶ危険は衝撃でした。いつも、受講後に感じるのですが、ご利用者様にきちんと適正な支援ができていますか？ケアマネとして、どこまで関わるべきなのか！何が出来るのか！導入したサービス、福祉用具は本当に適切なものか！ケアマネとしての資質そのものを試されている気がして仕事を続けることが怖くなります。(大山さんの、「だからしっかりと学んでいかなければならぬ！」と叱咤の声を聞かれましたが…)だから、これからも仕事を続ける限り学ぶ姿勢も継続していかねばと思っています。今回の研修セミナー、本当にこの地域の多くの介護・看護職、リハ職、そして福祉用具に携わる方々に受講してもらいたいと心より思いました。各々の分野の方々が専門的知識をもち、プロとしての関わりをもつことの大事さをあらためて感じました。これからの介護に関わる方々がポスチャリングケアを学ぶ機会をもち、包括的な支援が確立できる時代がくることを期待したいと思います。時間ぎりぎりまで、受講者の質問にお答えしていた先生の姿勢、利用者様本位の魔改造の数々、すごいと思いました。魔改造とまでいきませんが、座面底板の情報提供や坐骨結節へのシーティング、背もたれ折れ機構の改善方法は真似できるかなと思いました。今回、2日間にわたり、内容の濃いセミナーへの参加し、大淵先生との御縁をいただきまして、大淵先生、そして、企画やお話をいただいたNPO福祉用具ネットの大山様、理事の皆様にも心より御礼と感謝を申し上げます。 | |
| 4 | 7月26日土曜日 13時受付開始 講義13時30分から 15時30分 講義時間2時間 | 70名 | 認知症ケア～老いの親方・感じ方～ | 講師 宅老所よりあい代表 村瀬孝生氏 | 79人 | 認知症ケア 老いの親方・感じ方 | ・介護ショートステイの施設で働いたことがあります。介護することのつらさばかりが残っています。今日、講義されたように、つらさを笑いに換えることができれば、もう少し介護施設で頑張れたらいいなと思います。今後何かの縁で介護施設で働くことがあれば、今日のことを思い出して、老人と楽しく過ごすことができればいいなと思います。 ・現場の中からの認知や看取り、老いの感じ方をすっきりとした感じでした。私は介護職ですから、つい、学識で判断して老いを感じますが、少し違う角度から見たいと思います。 ・老いは自然なことであり、物忘れや体の老化は当然の事である。もの忘れや加齢による脳の機能の低下による症状を「認知症」の一くくりで異常、治療の対象として見るのではなく、誰もが迎える人生の終末の状態としておらかに受け入れるという姿勢の話を聞き、学ぶこと、考えさせられることが多かった。普段接する患者さんや自分の家族に対しても老いを受け入れる姿勢で、できないことと目くらまを立てるのではなく今の状態をありのままに受け止めて接していきたいと思いました。 ・老いはだれにでも訪れることですが「宅老所よりあい」のような取り組みをしている施設があれば老いていくことも怖くないと思いました。今の老人施設での生活は少しさみしいイメージがあります。仕事でお年寄りの方々と接していますが、患者さんの入院前の生活状況についてお話は聞きますが、実際に入院生活の中で入院前の状況に近づけた看護ができていないかと思えました。治療優先で、お年寄りの気持ちを考えることができないように思います。今日の研修会に参加したこと、様々なことを考えさせられました。これから親も年を取っていきます自分自身も年を取っていきます。そのようなときに宅老所が身近にあったら本当にいいなと思いました。 ・時間と空間の見当が失っていく。泣き笑いを地域、家族、職員共有して付き合っていく。短期記憶がなくなっている人にくり返し付き合っていくと、それが長期記憶として習慣化して体が覚え安定してくる。老いをユーモアとしてとらえて見て、みんなで共有していく。ボケてくると認知症ではない。もう一つの空間をかそくとつづいていく。立ち止まって考えることが大切。延命したくないなら体に触れて関わっていく。できない部分を補っている。村瀬さんの話はとても内容の濃いひきつけられる内容で勉強になりました。 ・体験談が多く話がすんなり入り、興味深く拝聴しました。「3日前何食べた？」のところで、本人はこうだと事実とは異なる場合に異常と判断し、認知症等とすぐに結論付けてしまふ所は私も疑問を感じてます。また、認知症にで覚えることができなくても、その方にとっては事実であり、会った人を覚えていないのも、本人にとっては初めてのお会いですから、否定せず理解する必要があると思います。私も勉強不足ですが、もっと色々な方々に老いの事、健忘、認知症、高齢者について知ってもらえたら幸いです。 | |
| 5 | 8月2日(土) 13時から16時 | 30名 | 交流会2回目「認知症の人をささえる～ケア・後見・看取り～」 講演&意見交換会 超高齢社会に突入している今、認知症問題は避けて通れません。介護でのさえ方、地域でのさえ方、もしも家族が認知症になったら・・・みんなで本音で語りませんか！ | 話題提供者 NPO福祉用具ネット 理事長 豊田謙二氏 (熊本学園大学大学院教授) | 32人 | 認知症の人をささえる～ケア・後見・看取り | ①「パーソンセンターケア」の考え方を多方面より解説してもらったこと。②どうしてこの考えを広めるかが今後の問題。ケアをする中で看取り(ホスピス)に役立つ、自己決定に役立つ、認知症者の状態が分かるようになることが必要。 ・自己決定という点でとても心痛みを思いました。本人の意思を大切にこれら接していきたいと思えます。ボランティアも責任という問題で行き詰っています。リスクを伴うこともあるということをもっと理解して一歩進んでいきたいと思えます。 ・それぞれの立場での思いや感想を聞くことができ、気づかされることも多かった。「自分の意思」で決められること。そして「何かあった時の責任は？」を問いつつも揺れていきます。 ・本人の意思決定がしっかり受け入れられて生活できることをあらためて幸せなことだと確信いたしました。現在、成年後見人の支援(介入)で独居で生活されている方がいます。毎日のデイ、毎日のヘルパーの支援(自費あり)の支援で生活されていますが、食事をとることが少なくなり、次の手だてと思いましたが、その方は「家で死にたい！」とはっきり意見を言われました。まよいがあり主治医とも検討しましたが、全て関わる方々と検討後、在宅で見ていくことになりました。本日のお話は私の背中を押して下さった様でとても有難かったです。本当にありがとうございました。 ・豊田先生のお話は広い意味で勉強になり、また、色々な方々の色々な意見を聞け、とても良かったです。認知症の意思決定は本当に難しいですね。 ・自己決定(看取り)＝自己について一尊重一死一感じていること。最近ユニットの利用者の看取りをしましたのが本当にその通りだな～と感じました。深い眠りにつづいてご本人様は感じていることに気づきました。参考になりました。 ①年金を考えてリビングウィルのみをいつも考えておりました。尊厳死協会の会員の事を考えました。②ボランティアの事も思いました。私にできることがあれば参加したいと思えます。③先生の御活動大変勉強になりました。自分で決定をしなかった人間として考えていきたいと思います。本当にありがとうございました。 | |

| | | | | | | | |
|----|--|-----|--|---|---|---|---|
| 6 | 8月30日土曜日 8時30分受付開始 講義9時から15時 昼休み1時間 講義時間5時間 | 50名 | 【排泄ケアやおむつの選択を通して、一人ひとりの暮らしを支える一その視点と用具について】 講師 排泄総合研究所 むつき庵代表 浜田きよ子氏 | 50人 |  | <p>・排泄について、一人ひとりの暮らしで、ケアの対応がちがうこと、生活習慣、病歴も情報収集する大切さ等がわかり、おむつ選ぶ時も大切である。状況を把握し、問題の所在をを考えていく事が勉強することができよかったです。</p> <p>・グループワークで色々な意見を出し合いながら、午前中に受けた講義内容を振り返ることが出来、一日の学ぶことの流れがとてスムーズに行えたこと。</p> <p>・“マニュアルを覚えていく前に、考えていくこと、情報収集をすること”が大事であることについてのこと。</p> <p>・何度お聞きしても、トータルなその方とその方の暮らしを考えるケアに新たな発見があるように思います。ありがとうございます。</p> <p>・今まで担当した患者で排泄へのアプローチが少なく、尿漏れがあった時にうまくパッドやオムツをあてたら大丈夫という考えでいました。今回、このように排泄を様々な視点からひも解くことの重要性を学ぶことができ、とても充実した機会となりました。今後の自身のアプローチに活かしていきたいです。</p> <p>・施設で私が訴えていることはまちがっていなかったことに安心した。又、正しいおむつのあて方を知らなかった。排泄ケアについても真剣にとりくむべきだと思った。自信をなくし、あきらめかけていたけどやる気につながりました。やるべきことはまだたくさんあるんだと感じました。ありがとうございます。また、勉強会に参加したいです。</p> <p>・専門的に私にとっては難しかったが、おむつを当てられ取りはずしてしまふ母の気持ちがよく解った。十把一絡げで皆、同じ介護をされていることは、不幸なこと、原因を究明して個々を大切に接することが何故に大切かを痛切に感じた。</p> <p>・実際に紙オムツを装着できて体験できて良かった。また色々な種類の排泄ケア商品を見ることができて良かった。排泄ケアアはずさわってきて、奥が深いなと思ってきたが、ますます幅広い知識が必要なんだと考えさせられました。この会に参加できて良かったです。</p> <p>・アセスメントと排泄の結びつき。</p> <p>・日常生活や、便利器具、オムツの交換等で、生活改善になることが理解出来た。</p> <p>・排泄ケアを排泄のみで考えるのではなく、生活で捉えることの必要性がよく分かりました。実際にオムツをつけて、つけ方によって動きが異なることを実感しました。</p> |   |
| 7 | 9月19日(金) 8時30分受付 9時から17時講義 | 16人 | 実技研修会 【動作介助とポジショニング技術 フォローアップコース】 講師 うえるば高知代表 下元佳子氏 | 16人 |  | <p>・どうやって現場を変えていったらいいのかがあったところがすごく良かったです。研修会に出て、知識と技術が少し上がった。現場で活かそうと思っても、結局長持ちしなくて前に戻ったり、せざるをえなかったりしています。いいことを学んだ分今の自分の状況とのギャップが苦しかったりします。でも基礎が何か振り返ろうと思いました。</p> <p>・ポジショニングの他に目的目標の考え方も良かった。これから先の伝達で少し楽になりました。ありがとうございます。</p> <p>・ポイントをしぼってくださったので持ち帰って周囲に伝えていくことを考える参考になりました。(もちろん私自身の学びの整理にとでも役立ちました) ・介護の基本を知る難しさをあらためて認識しました。下元先生の講義を上司と一緒に聞いたこと、大変良かったと思います。去年の講習とは違った目で見ることができました。同じ内容の講習を引き続き開催していただくことを希望します。ありがとうございます。</p> <p>・今回で2回目のフォローアップ研修でしたが以前受講した内容を思い起こしながらの研修でしたが、ストン！と落ちる内容があり実践していけるような気がします。今後も現場の課題を少しでも改善できるよう、学が姿勢は持ち続けようと思心新たにしました次第です。ありがとうございます。</p> <p>・皆さん慣れている方が多かったかもしれませんが、基本に立ち返る内容で私も安心して受講できました。まず寝姿勢を安楽に、足底に体重をのせることと確認できて、他の人にも説明できるようになりたいと思います。</p> |   |
| 8 | ・9月20日(土) 8時30分受付 9時から17時講義 ・9月21日(日) 8時30分受付 9時から16時講義 | 32人 | 実技研修会 【動作介助とポジショニング技術 技術習得コース】 講師 うえるば高知代表 下元佳子氏 | 32人 |  | <p>・学校卒業後、移動やポジショニングなどあまり考えずに患者に接していた。今回、自分の患者さんへの接し方や移動をもっと勉強しないといけないと思いました。</p> <p>・自分のできていること、できていないことがよりわかったこと。今後の課題をはっきりしたことで自分のすべきことが確認できた。</p> <p>・無理のない介助方法を学べたことはもちろんですが、先生方やグループの方々色々な話を聞いて、患者、利用者に対する思いがその人らしくについて考える良い機会となった。</p> <p>・同僚場でポジショニング研修を受けた介護士にやり方が良いということ、実践の中で聞いていたが理屈が分からず受け入れがたい所がありました。実際に受講することですんなり納得でき、介護士が実施していた行動、技術と結びつきました。なぜこの行為が必要なのか、じっくり考えることができた2日間、日ごろの実技を見直す良い機会を頂きました。グループごとで皆さんコミュニケーション能力が高く、自分もスムーズにとけこめ楽しく研修を受けられてよかったです。お互い、向上できるように意見交換しながら積極的に取り組めるとも良かったです。職場でもディスカッションしながらポジショニングに取り組めるよう働きかけたいと思いました。</p> <p>・身体はどこに力がまわって、それが患者さんの苦痛や拘縮を招いているという視点をこの二日間で勉強することができました。また、目標の立て方や計画をどうするのか、どうしたら組織が変わるかというマネジメントの視点も勉強できてよかったです。</p> <p>・先生のパワー、考え方に感動して涙が出そうでした。また若い方が一生懸命に勉強している姿をみてうれしくなりました。</p> <p>・知っていたようで、できていなかったこと、見落とししていたこと、たくさんの発見がありました。楽しい研修会でした。</p> <p>・グループ、チームを他職種で構成していただいていたので、それぞれの得意分野を生かして学び合いができました。</p> <p>・姿勢やポジショニングについて改めて考えることができました。しているつもりでできていない体重分散の仕方や圧の抜き方などとても参考になりました。</p> |   |
| 9 | 11月7日(金) 午後 11月8日(土) 午前 その他、3日間 ブースセミナー AI MIに2日間 | | 西日本国際福祉機器展会場内セミナー(無料) 福祉住環境コーディネーター協会との共催事業 11月7日午後 【床ずれ予防のための姿勢管理～ポジショニングからシーティング～】 11月8日午前 【介護者の腰痛予防、当事者の二次障害予防のための移乗介助技術】 その他ブースセミナー3日間 合計12件 支援と学習のキネステイクス体験講座2日間4回開催 | 講師 うえるば高知代表 下元佳子氏 11月7日 170人 11月8日 130人 その他の12件の講座参加者合計 約600人 支援と学習のキネステイクス 28人 | アンケートなし |     |   |
| 10 | 12月6日(土)13時から16時 | 30人 | 介護ロボットについて 講師 副理事長 坂田栄二氏 | 23人 |  | <p>・ロボット産業の進捗状況が良く分かり、且つ、説明された各々の商品の概要がよくわかりました。また、意見交換を通して、多種多様な視点があることが理解でき、大変良かったです。</p> <p>・坂田さんの講義がとて良かったです。</p> <p>・講義内容・意見交換会共に為になる素晴らしいものでした。現場や専門家の意見が聞けてとても参考になりました。</p> <p>・今後、確実に介護ロボットが導入されてくることと思いますが、現状を伺うことができ本当に勉強になりました。とても面白い内容でした。坂田副理事長様有難うございました。</p> <p>・坂田さんのお話はとても良かったです。楽しみにしていました。また、各職、立場の方々のお話もきけてとても有意義でした。現場を知らないものとしては思いつかない発想が多々あり、発見もあり、勉強になりました。有難うございました。</p> <p>・介護ロボットについて知識・情報をたくさん知ることができた。</p> <p>・病院の運営の中でどう利用していくか考え直す時となった。</p> <p>・今後も、このような会を是非、第2回・3回・4回と続けて開催していただきたいです。よろしくお願致します。</p> <p>・ロボットの性能と福祉の関係について、改めて考えさせられ、とても良かったです。</p> |   |

